

風通し良く、コミュニケーションはとれています！

小野測器株式会社

(製造業／宇都宮市)

【雇用障害者数】2名

ライン業務を担当するKさん（身体（視覚）障害）について、管理本部の大島グループマネージャーと糸井グループリーダーにお伺いしました。



【採用・雇用のきっかけ】

Kさんはハローワークから紹介を受け、面接後採用しました。ほかに特別支援学校の生徒（知的障害）のインターンシップ受入れや、見学会への参加なども行っています。

【雇用に際しての取組】

● アプローチ1 社内への理解、周知の方法について～採用

社内全体への周知はしていませんが、配属となる職場単位でその人の特性も含めた障害内容の周知、理解を図っています。また、ハローワークから紹介があった場合、部署毎に本人の障害内容や特性で適応できる業務があるかどうか、検討しています。

Kさんの職務の選定については、ある程度繰り返しの業務で本人が理解し単独で行えるような、聴覚に障害があっても比較的取り組みやすい職務を選定しています。

採用としたポイントは、本人のやる気と明るい性格、相応のスキルも持っていると思われ、通常の従業員と同様の仕事ができるのではないかと判断したためです。

● アプローチ2 支援機関とのつながり

Kさんに関しては、ハローワークの紹介なので特に支援機関との繋がりはありません。しかし、栃木県が主催する障害者雇用に関する勉強会、講習会などには度々参加、また、障害者を多数雇用している企業の見学にも行き、情報を取り入れています。

【職場定着のための配慮・工夫など】

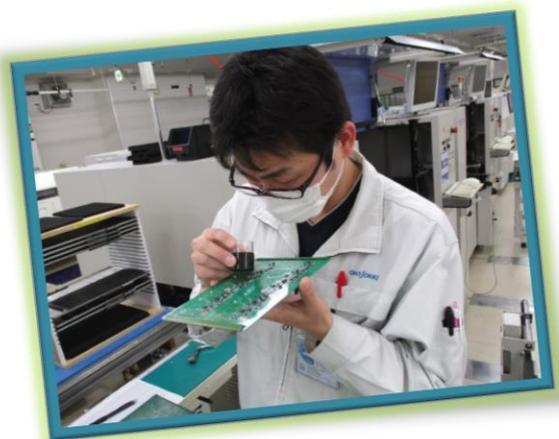
聴覚障害者への配慮としては、部署に手話の一覧表を置き、最低限の会話ができるようにしています。社内教育の際には、必ず視聴するDVDに文字（字幕スーパー）が入っているものを使用しています。

障害者全体への配慮としては、一人になるような場所（更衣室、食堂、トイレ、職場内など）には、非常用のフラッシュライトを設置し、障害者に何かあった場合はフラッシュライトを点灯させ、近くの人が気付けるようにしています。車椅子でも入れる障害者用トイレや駐車場は専用スペースを広くとり、ドアを全開にしても車椅子の乗降ができるよう、2台分を確保しています。

【現状と今後の課題】

障害者を受入れるための、設備面での環境は整っています。また、企業としても雇用促進に前向きに取り組んでいます。しかし、業務内容が少量多品種生産のため反復作業が少なく、職務選定

は容易ではありません。そのため、すぐに多くの雇用は出来ませんが、どのような工夫や業務が妥当かなど情報を仕入れ、試行錯誤を重ねながら障害者雇用を促進していく必要があると思っています。障害者を雇用するに当たっては苦慮する場面もあるでしょうが、今後も従業員が障害特性を理解し、支援する気持ちを持てるよう教育していくつもりです。Kさんについては、入社後研修兼実務を通して業務を習得した2年の経験とスキルもあり、現状での課題は特にありません。一生懸命取り組み、今では自主的に業務も遂行できるので、信頼し任せています。



【Kさん（30代男性）へのインタビュー】

Q. 現在はどのような仕事をしていますか？

A. 部品の実素ライン業務をしています。

①マウンタという機械を使って出来たものを検査しています。

②部品のセッティング。

③PCで部品のデータ作成。データ作成は入社後に教わり、PCは得意とはいえませんが、少しずつ慣れてきました。

Q. 現在の仕事は、どうですか？

A. 入社直後は覚えることで精一杯でしたが、徐々にできるようになってきました。従事している仕事の中では、部品の検査が一番好きな業務です。製造ラインから流れる部品のセット方向の間違いを探し、正しい方向に直して再び製造ラインに流す業務です。

Q. 今の職場はどうですか？

A. 職場の皆さんと話し合いができ、風通しが良く働きやすい職場です。

職場には女性の従業員が多くいますが、休憩時間に昼食を一緒に食べるなど、皆さんとはコミュニケーションがとれています。



Q. 将来の目標はありますか？

A. 今は基盤（部品）の一部分の作業ですが、自分で作った基盤にハンダ付けをするなど、部品が完成するまでの作業に係わってみたいと思います。基盤を作った後は次の工程へとラインが進んでいくので、自分が作った部品が製品のどこに使われているのかが分かりません。製品が出来るまでの、全部の流れに係われるような仕事がしてみたいと思っています。

障害のある方は、障害を持っていることを引け目を感じないで、自分の個性だと思って周りの人と対等に話しができるといいと思います。

【取材を終えて～取材担当者コラム】

「全部に係わる仕事がしたい」というKさん。仕事に対して一生懸命で前向きな姿が印象的でした。

課題解決に向け積極的に外部の情報を得るため奔走し、また取材の折にはご自身で手話を勉強された従業員の方がKさんを手助けするなど、皆さんが障害者雇用にも前向きでした。

